

Microsoft Copilot Studio 解説: Microsoft 365 統合版と Azure 版の比較

1. エグゼクティブサマリー

Microsoft Copilot Studio は、AI を活用したコパイロット(エージェント)を構築・カスタマイズするための多機能なローコードプラットフォームです。本製品は主に2つの提供形態が存在します。一つは Microsoft 365 (M365) エコシステム内に深く統合された形態、もう一つは Microsoft Azure 上でより包括的なスタンドアロンサービスとして提供される形態です。

M365 統合版の Copilot Studio は、主に既存の Microsoft 365 Copilot を拡張・カスタマイズすることを目的としており、ユーザーは M365 のデータやサービスを活用して、組織内の生産性向上に特化したエージェントを構築できます¹。ライセンスは多くの場合、Microsoft 365 Copilot にバンドルされています²。

一方、Azure ベースの Copilot Studio は、堅牢な従量課金制のプラットフォームであり、他の Azure サービスや外部システムとの広範な連携機能を備え、組織内外の多様なシナリオに対応する高度でスケーラブルな AI エージェントを作成できます⁴。

これらの提供形態の主な違いは、ライセンスモデル、機能の深さ、拡張オプション、対象となるユースケース、そして基盤となる技術アーキテクチャにあります。Microsoft が Copilot Studio でこのような2つの提供モデルを採用している背景には、より広範な市場へのアプローチ戦略がうかがえます。つまり、M365 の迅速な機能強化を求めるビジネスユーザーと、本格的な AI 開発プラットフォームを必要とする開発者や IT プロフェッショナルの両方のニーズに応えようとしています。M365 統合版は、「迅速かつ簡単なプロジェクト」向けの「エージェントビルダー」として位置づけられ²、M365 Copilot ライセンスに含まれることが多く³、既存の M365 ユーザーを対象としています。対照的に、Azure 版は「従量課金制サービス」であり⁴、「どこでも」利用可能なエージェントを構築できるため⁴、より広範でカスタマイズ性の高いアプリケーションが想定されます。この二分化により、Microsoft は、M365 ユーザーが最小限の追加投資や複雑さで現在の M365 エクスペリエンスを強化できるようにすると同時に、M365 の範囲を超える可能性のある、より複雑な要件に対しては、より高度な機能(および Azure の利用)への道筋を提供しています。この戦略は、M365 ユーザーにとって AI 開発の敷居を下げつつ、より高度なニーズに対しては Azure のエコシステムへと誘導することを狙いとしていると考えられます。

本レポートでは、これらの2つの提供形態について詳細に検討し、組織のニーズに適した Copilot Studio のアプローチを選択するための一助となることを目的としています。

2. Microsoft Copilot Studio の概要

Microsoft Copilot Studio とは何か？

Microsoft Copilot Studio は、自然言語またはグラフィカルインターフェースを使用して、インテリジェントなエージェント（コパイロット）を作成・管理できる、エンドツーエンドの対話型 AI プラットフォームです⁴。Microsoft Power Platform ファミリーの一員であり⁶、ローコード開発に重点を置いています。様々なデータソースに接続し、プロセスを自動化し、パーソナライズされたエクスペリエンスを提供できる AI 駆動型エージェントの構築を可能にします。

Copilot Studio は単なるチャットボットビルダー以上のものとして位置づけられており、「エージェント」プラットフォームという呼称が示すように、単に質問に答えるだけでなく、より積極的に自律的、かつ深く統合された AI アシスタントへの移行を示唆しています。これは、アクションを実行し、タスクを調整できる能力を意味します。「エージェント」という用語が一貫して使用されており¹、「アクション」⁶、「ビジネスプロセスの自動化」¹、「エージェントフロー」⁶、そしてエージェントが「グラフィカルユーザーインターフェースを持つあらゆるシステムと対話できる」ようになる「コンピューターユース」⁸といった機能は、単純な Q&A を超える能力を示しています。さらに、アナリティクスで言及されている「自律型エージェント」や「生成的オーケストレーション」⁸といった概念は、より自立性と複雑性を持って動作できるエージェントという考え方をさらに強化しています。これは、ワークフローに深く組み込まれ、異なるアプリケーション間で複数ステップのタスクを実行できる AI アシスタントへの戦略的な方向性を示唆しており、より高性能な AI という広範な業界トレンドと一致しています。

コア機能とアーキテクチャ

Copilot Studio の中核をなすのは、多岐にわたる機能群です。

- 生成的AI: 大規模言語モデル (LLM) を活用してエージェントを迅速に構築し、自然な会話を実現します¹。
- エージェント構築: 組織内外のシナリオに合わせてエージェントを設計、テスト、公開します⁴。
- コネクタ: Power Platform コネクタ、Microsoft Graph、カスタム API など、広範なサービスやデータソースと統合します²。
- トピックデザイン: 会話フローとロジックを定義します。
- エンティティ抽出: ユーザー入力から主要な情報を識別し、活用します⁶。
- 認証: ユーザーアクセスとIDを安全に管理します⁶。
- 分析と監視: エージェントのパフォーマンスや使用状況を追跡し、改善領域を特定します⁶。
- 管理とガバナンス: 環境、ライセンス、セキュリティを管理します²。

組織にとっての主な利点

Copilot Studio を導入することで、組織は以下のような多くの利点を享受できます。

- 生産性の向上: タスクを自動化し、即座に回答を提供し、ワークフローを合理化します¹。
- 顧客・従業員エクスペリエンスの改善: パーソナライズされた効率的なサポートを24時間

365日提供します¹⁰。

- **コスト削減:** 自動化を通じて効率を向上させ、運用コストを削減します¹。
- **スケーラビリティ:** ビジネスニーズに合わせて拡張可能な AI ソリューションを開発・展開します。
- **イノベーション:** AI 駆動型ソリューションの迅速な開発と展開を可能にします。

3. Microsoft 365 における Copilot Studio

M365 エコシステム内での統合と可用性

Copilot Studio の機能は Microsoft 365 Copilot に統合されており、ユーザーは標準の M365 Copilot エクスペリエンスを拡張・カスタマイズできます¹。これは、Microsoft Teams、microsoft365.com/chat、office.com/chat などの M365 アプリ内の「Copilot Studio エージェントビルダー」を通じてアクセス可能です²。

この M365 統合版 Copilot Studio は、広大な M365 ユーザーベースに最小限の摩擦とコストで AI 開発機能を紹介するための戦略的な手段として位置づけられていると考えられます。M365 エージェントビルダーは「迅速かつ簡単なプロジェクト」向けに設計され²、M365 Copilot ライセンスに寛大な利用条件で含まれています³。これにより、参入障壁が大幅に低減されます。使い慣れた M365 環境内で簡単なエージェントを容易かつ費用対効果の高い方法で構築できるようにすることで、Microsoft は AI の広範な実験と採用を奨励しています。ユーザーがこれらのエージェントを構築し、その価値を認識するにつれて、M365 エージェントビルダーの制限（知識ソース、Teams チャット統合、高度なアクションなど）に直面する可能性があります²。実際に、ある資料では「外部サービスを統合するアクションなど、より高度な機能については、ユーザーは完全な Microsoft Copilot Studio を利用すべきである」と明記されており²、これは明確なアップセルパスを示しています。この戦略により、Microsoft は組織内で AI 開発スキルを育成し、ROI を実証することで、より複雑なニーズに対応するために、より包括的で（そして Azure の利用を通じて潜在的により多くの収益を生み出す）Azure 上の Copilot Studio への移行を自然な流れとしています。

M365 ユーザー向けの機能と能力 (例: エージェントビルダー)

M365 ユーザーは、エージェントビルダーを通じて以下の機能を利用できます。

- **簡素化されたエージェント作成:** エージェントビルダーは、「迅速かつ簡単なプロジェクト」のための「即時的でインタラクティブな AI 開発エクスペリエンス」を提供します²。
- **シナリオ特化型エージェント:** 特定の組織基準に合わせたライティング指導やチームのオンボーディングなど、特定のタスクに特化したエージェントを構築できます²。
- **ナレッジソース:** SharePoint コンテンツや Microsoft Graph コネクタを専用のナレッジソースとして利用できます²。
- **テストと共有:** M365 Copilot の会話内で使用したり、組織内の他のユーザーと共有したりする前に、エージェントをテストできます²。

M365 Copilot に関連するライセンスとコスト

ライセンスとコスト構造は、M365 統合版の重要な特徴です。

- 「Microsoft 365 Copilot における Copilot Studio」ライセンスは、ユーザーあたり月額 \$30 です³。
- 重要な点として、**Microsoft Teams、SharePoint**、および **Microsoft 365 Copilot** 向けに **Copilot Studio** で構築されたエージェントは、このライセンスに追加料金なしで含まれます³。
- M365 Copilot のライセンスを持つユーザーが M365 製品上でこれらのエージェントを使用する場合、クラシックな回答、生成的回答、またはテナントの Microsoft Graph グラウンディングは、Copilot Studio のメッセージパックやメーターに対してカウントされません³。これは、M365 中心的なユースケースにとって大きなコストメリットとなります。
- このライセンスには、M365 Copilot の一連の機能、Copilot Analytics、SharePoint Advanced Management が含まれます³。

一般的なユースケース: Microsoft 365 Copilot の拡張

M365 統合版は、以下のようなユースケースで特に有効です。

- 組織固有の情報(例: 人事ポリシー、内部システムに合わせた IT サポート FAQ)を提供するエージェントの作成。
- 特定のタスク(例: 会社の基準に準拠したプレゼンテーションスタイルやドキュメントフォーマット)のためのコーチングエージェントの構築²。
- チーム固有のオンボーディングプロセスの自動化²。
- Copilot を強化し、特定のビジネスプロセスをバックグラウンドで自動化¹。

制限事項と考慮事項

M365 統合版を利用する際には、いくつかの制限事項を理解しておく必要があります。

- ナレッジソースの制限: Web ブラウジング、Microsoft Graph コネクタ、SharePoint サイト、フォルダ、ファイルに限定されます²。
- 共有の制限: SharePoint コンテンツの自動共有はセキュリティグループに限定され、手動での権限更新が必要になる場合があります²。
- サポートされていない機能(エージェントビルダー内): エージェントビルダー内では、Lockbox や顧客管理キー (CMK) は直接サポートされていません²。ただし、CMK はより広範な Copilot Studio プラットフォームでは利用可能です⁸。
- **Teams** チャットの制限: M365 エージェントビルダー経由で作成されたエージェントは、Teams チャットでは使用できません²。これは、主に M365 Copilot の主要なエクスペリエンスを拡張するためのものであることを示唆しています。この制限は、完全な Copilot Studio の機能との差別化を図り、特定の利用パターンを M365 Copilot のメインインターフェース内で促進するための意図的な設計選択である可能性があります。Microsoft

Teams は主要なコラボレーションハブであり、チャットボット/エージェントを Teams チャットに直接展開することは一般的なユースケースです。完全な Copilot Studio では Microsoft Teams への公開が可能です⁴。M365 エージェントビルダー経由で構築されたエージェントを Teams チャットでの直接展開から制限することで、Microsoft はユーザーに対し、これらのエージェントを主に中央集権的な M365 Copilot エクスペリエンスを拡張・強化するために使用するよう誘導しているのかもしれませんが。これにより、Teams 内に多数の、潜在的に断片化された個別のボットが作成されるのを防ぐ意図もあると考えられます。また、これは Teams ボットの直接展開を必要とするユーザーを、完全な Copilot Studio (潜在的には関連する消費モデルを持つ Azure 上の) へと誘導する方法でもあり、提供内容をセグメント化している可能性があります。

- **Dataverse ストレージ:** M365 エージェントビルダー経由で作成されたエージェントは、テナントの Dataverse ストレージ利用量を消費しません²。これはシンプルなエージェントにとっては利点です。しかし、完全な M365 Copilot ライセンスには Copilot Studio 用の Dataverse が含まれており³、最終的にはそれを活用する可能性のある、より複雑なシナリオへの道筋を示唆しています。

4. Azure 上の Copilot Studio

Azure 上のサービス提供とアーキテクチャ

Copilot Studio は、M365 Copilot ライセンスとは独立して使用できるエンドツーエンドのエージェント構築プラットフォームとして Azure 上で提供されています⁴。Azure のグローバルインフラストラクチャを活用し、スケーラビリティと信頼性を確保しています。様々な業界、部門、役割にわたる組織内外のシナリオに対応するエージェントの構築が可能です⁴。

Azure ベースの Copilot Studio は、「パワーユーザー」および「開発者中心」の製品として位置づけられており、最も深いカスタマイズ、制御、および統合機能を提供しますが、消費コスト（「メッセージ」）に関するより微妙な理解も必要とします。Azure AI Search との統合、独自のモデルの持ち込みといった機能⁴、そしてエージェントを「どこでも」利用可能にするという一般的な強調点は、M365 統合ビルダーよりも複雑で多様なシナリオ向けに設計されたプラットフォームであることを示しています。「メッセージ」に基づく従量課金モデル³は柔軟性を提供しますが、コストを管理するためにはエージェントの複雑さを慎重に計画し、監視する必要があります。これは、消費量を最適化できる開発者を対象としたクラウドプラットフォームサービスに典型的な特徴です。「Azure サービスと統合してエージェントを強化する」機能⁴は、既に Azure エコシステム内にいるか、それを活用する意思のあるユーザーを明確にターゲットとしています。この製品は、M365 の生産性向上を超えた、高度にカスタマイズされたミッションクリティカルな AI エージェントを構築する必要がある組織に対応します。

スタンドアロン機能と高度な機能

Azure 版は、M365 統合版よりも広範で高度な機能セットを提供します。

- 独自エージェントの構築: 生成的 AI と LLM を使用して、情報を取得したり、アクションを実行したり、複数のアクションを調整して自律的に動作したりするエージェントを設計します⁴。
- **Azure サービスとの統合:**
 - Azure AI Search (旧 Azure Search) のベクトル化されたインデックスを統合してエージェントを拡張します⁴。2025年5月に一般提供開始予定⁹。
 - Azure モデルカタログから独自のモデルを持ち込み、トピックに適用します⁴。
- マルチチャネル展開: カスタム構築されたエージェントを、外部向けウェブサイト、ポータル、Microsoft Teams チャネル、さらには Microsoft 365 Copilot Chat の拡張など、多くのチャネルに展開します⁴。
- 高度なオーサリング: M365 エージェントビルダーと比較して、トピックデザイン、エンティティ抽出、ダイアログ管理、アクション作成のためのより包括的なツールを提供します。
- エージェントフロー: 複数ステップのプロセスと条件付きロジックを備えた高度な承認を含む、複雑な複数ステップの自動化を構築します⁶。

価格モデル: 従量課金制とメッセージベースの消費

Azure 版の価格設定は、消費量に基づいています。

- 従量課金制: メッセージあたり \$0.01³。組織は実際の消費量に対してのみ支払い、柔軟性を提供します³。
- メッセージパック: テナントあたり月額 \$200 で 25,000 メッセージ³。パックの利用限度を超過すると、従量課金制のメーターが開始されます。
- 「メッセージ」の定義: エージェントが情報を取得し、応答し、アクションを実行するために必要な時間と労力の尺度であり、カスタムトリガーとスキルに基づいています。複雑さとナレッジソースがメッセージ数に影響します⁴。この「メッセージ」の定義は意図的にやや抽象的(「時間と労力...回答またはアクションの複雑さ」)⁴であり、Microsoft に柔軟性を与える一方で、顧客にとっては懸念事項または最適化の対象となる可能性があります。これは、「メッセージ効率の良い」エージェント設計におけるベストプラクティスの市場を促進する可能性があります。「消費単位は『メッセージ』であり、消費されるメッセージ数は、構築されたエージェントの種類、利用するナレッジソース、プロンプトに応じて生成される回答またはアクションの複雑さによって異なります」と記載されています⁴。これは、ユーザーの発話と単一メッセージの単純な1対1のマッピングではありません。複数のデータ検索、生成的 AI 処理、および外部アクションを必要とする複雑なクエリは、ユーザーのターンごとに複数の「メッセージ」を消費する可能性があります。正確で固定された定義がないため、顧客は使用状況を注意深く監視し(⁶の分析機能)、異なるエージェント設計のコストへの影響を理解するために実験する必要があるかもしれません。これにより、効果的であるだけでなく、Azure プラットフォームでのメッセージ消費に関しても費用対効果の高いエージェントを設計するための専門的なスキルやコンサルティングが必要になる可能性があります。

一般的なユースケース: カスタムでスケーラブルな AI エージェントの構築

Azure 版は、以下のようなより要求の厳しいユースケースに適しています。

- ウェブサイトやポータル向けの外部顧客サービスエージェント⁴。
- 複数のバックエンドシステムと統合された複雑な内部ヘルプデスク。
- 営業、サービス、財務向けの役割特化型エージェント(これらは M365 Copilot 専用バージョンも存在しますが、Azure 上の Copilot Studio ではよりカスタマイズされたバージョンを構築できます)¹。
- カスタム LOB アプリケーションや特殊な Azure AI サービスとの深い統合を必要とするエージェント。

Azure サービスによる拡張性

Azure AI Search やモデルカタログ以外にも、Azure エコシステムとのより広範な統合の可能性を示唆しています(例: サーバーレスロジックのための Azure Functions、データストレージのための Azure Cosmos DB、カスタムモデル展開のための Azure OpenAI)。Copilot in Azure が Azure サービス全体の運用を簡素化すると言及されており⁵、これは Copilot Studio とは異なりますが、Azure エコシステムの AI への注力を示しています。

5. 比較分析: M365 統合版 vs. Azure サービス

Microsoft Copilot Studio を活用する2つの主要なアプローチ、M365 統合版と Azure サービス版には、それぞれ特徴があり、組織のニーズや戦略に応じて選択することが重要です。以下の表は、これらの違いを明確に示し、迅速な比較を可能にすることで、最適なモデルの特定を支援します。

表1: Copilot Studio - M365 統合版と Azure サービス版の比較

特徴	Copilot Studio with Microsoft 365 (エージェントビルダー)	Copilot Studio on Azure (スタンドアロン プラットフォーム)
主な提供形態	M365 Copilot の拡張	スタンドアロン AI エージェントプラットフォーム
対象ユーザー	M365 ビジネスユーザー、市民開発者	開発者、IT プロフェッショナル、AI スペシャリスト
典型的なユースケース	内部生産性向上、M365 タスク自動化	カスタム内部/外部エージェント、複雑な統合

コア機能	簡素化されたエージェントビルダー、M365 データソース	完全なオーサリングキャンバス、高度なアクション、Azure サービス統合
ライセンスモデル	M365 Copilot ライセンスにバンドル	従量課金制、メッセージパック
価格基準	ユーザーあたり月額 (M365 Copilot の一部として)	消費メッセージあたり
拡張性	M365 コンテキスト、特定のコネクタに限定	広範な Power Platform および Azure サービス統合、カスタム API
Dataverse 利用	エージェントビルダーはテナント Dataverse ストレージを消費しない	Dataverse は不可欠、容量考慮事項が適用
展開チャネル	主に M365 Copilot エクスペリエンス内	ウェブサイト、Teams、カスタムアプリ、M365 Copilot
複雑性への対応	よりシンプルで焦点の絞られたエージェントに適している	非常に複雑な、複数ターンの会話やプロセスを処理可能

この比較から、M365 統合版は M365 環境内での迅速な価値実現と市民開発者の活用に重点を置いているのに対し、Azure 版はより高度な技術力と広範なカスタマイズ性を求めるシナリオに対応していることがわかります。

M365 統合版と Azure 版の Copilot Studio の選択は、単なる技術的な決定ではなく、組織が AI 開発をどのように推進するか（中央集権的な IT 部門か、連携したビジネスユニットか）、そして AI の運用コストをどのように管理するかという戦略的な側面にも影響を与えます。M365 版² はバンドルされたライセンスにより、M365 内のビジネスユーザーや市民開発者が独自の拡張機能を構築することを奨励し、これは連携型のモデルをサポートします。一方、Azure 版⁴ は従量課金制の価格設定と高度な機能を備えており、IT 部門や専門の開発チームが管理するプロジェクトにより適しており、複雑なエージェントに対してはより中央集権的または CoE（Center of Excellence）主導のアプローチを示唆しています。M365 版のコスト管理は（ユーザーごとのライセンスであるため）比較的シンプルですが、Azure 版では「メッセージ」消費量を注意深く監視する必要があり、運用費に影響します。したがって、この決定はツールだけでなく、AI 開発、ガバナンス、および財務監督のための組織モデルにも影響を及ぼします。

表2: Copilot Studio ライセンスと価格概要

ライセンスプラン / 提供形態	関連コスト	主な消費単位	主な内容 / 利用権	最適な用途
Copilot Studio in Microsoft 365 Copilot	\$30/ユーザー/月 ³	ユーザーライセンス	M365 エージェント構築、M365 Copilot ライセンスユーザー向けの M365 製品内での特定インタラクションに対する無制限メッセージ、Copilot Studio 用 Power Automate、Copilot Studio 用 Dataverse ³	M365 Copilot を M365 ユーザー向けに拡張する場合
Copilot Studio on Azure (従量課金制)	メッセージあたり \$0.01 ³	メッセージ	全プラットフォーム機能、利用分のみ支払い	変動するワークロード、Azure 上のカスタムエージェント
Copilot Studio on Azure (メッセージパック)	\$200/テナント/月 (25,000 メッセージ) ³	メッセージパック	大量メッセージ(完全に利用した場合、メッセージあたりの単価が低くなる可能性あり)	Azure 上での予測可能で中～高ボリュームのエージェント利用

ライセンスと価格設定は、テクノロジー導入の意思決定において重要な要素です。これらの情報は、予算編成や ROI 分析に不可欠であり、M365 にバンドルされた権利と Azure の消費ベースモデルとの間の混乱を防ぐのに役立ちます。

機能セットと機能性に関しては、M365 版は M365 シナリオでの使いやすさに焦点を当てたサブセットです²。Azure 版は、完全で包括的な機能セットを提供します⁴。データ処理とガバナンスについては、両方ともセキュリティ上の考慮事項があります。Azure は、より広範なプラットフォーム向けの CMK のような機能により、より詳細な制御を提供します⁸。一方、M365 は M365 ポリシーを継承します¹。M365 エージェントビルダーは CMK を直接サポートしていないことに注意が必要です²。

6. Copilot Studio の主なユースケースとアプリケーション

Copilot Studio は、その柔軟性と拡張性により、多岐にわたる分野で活用できます。多くのユースケースは情報検索や Q&A に焦点を当てていますが、新しい機能によってサポートされる新たなトレンドは、複数のシステムにまたがる複雑なビジネスプロセスに積極的に参加し、自動化する「アクション指向」のコパイロットへと向かっています。「エージェントフロー」⁶、「高度な承認」⁸、「カスタムエージェントによるアクション」⁶、そしてエージェントが「メニューを操作し、ボタンをクリックし、フィールドに入力する」ことを可能にする今後の「コンピューターユース」⁸ といった機能は、この変化を示しています。「コンピューターユース」は、エージェントが情報を提供するだけでなくタスクを実行することを示す明確な指標です。「ビジネスプロセスをバックグラウンドで自動化し実行する」能力¹もこのトレンドを裏付けています。この進化により、Copilot Studio は受動的な情報提供者から、ワークフローを実行できる能動的なデジタルアシスタントへと移行しています。

特定タスク向けのカスタムAIアシスタント構築

- ドキュメント・コンテンツ作成支援: 標準作業手順書 (SOP)、財務報告書、マーケティングコンテンツなど¹⁰。
- ドキュメント要約: 学術論文、長文レポートなど¹⁰。
- 会議議事録生成: アクションアイテムや主要な合意事項のハイライト¹⁰。
- データ分析とインサイト抽出: 財務予測、異常検知など¹⁰。
- PowerPoint プレゼンテーション作成: アウトラインや既存ドキュメントから¹⁰。
- メール作成支援:¹⁰。
- 人事関連タスク自動化: 職務記述書の作成、バーチャル面接のスケジュール調整など¹⁰。
- カスタマーサポート **FAQ**: よくある問い合わせへの24時間365日対応¹⁰。

ビジネスプロセスとワークフローの自動化

- 業務を合理化し、手作業を削減¹。
- エージェントフローを活用した複数ステップのプロセス(高度な承認を含む)の実行⁶。
- 営業、サービス、財務などの役割ベースのエージェント¹。

エンタープライズデータソースおよびシステムとの統合

- SharePoint、Microsoft Graph との接続²。
- Power Platform コネクタ(標準、プレミアム、カスタム)の活用³。
- Azure AI Search との統合によるエンタープライズデータの活用⁴。
- 拡張機能や API を介したサードパーティシステムとの接続⁹。
- 新しい Microsoft Graph コネクタ(Guru、GitLab、Asana など)によるさらなる機能強化⁸。

既存コパイロットの拡張 (特に Microsoft 365 Copilot)

- M365 Copilot を組織の基準や特定のチームのニーズに合わせて調整²。
- 汎用的な M365 Copilot では利用できない、コンテキスト固有の知識やアクションを提供。

広範な業界ユースケース

Copilot Studio の適用範囲は特定の業務に留まらず、様々な業界での活用が期待されます

¹¹。

- ソフトウェア開発: コード補完、デバッグ支援(これは GitHub Copilot を指すことが多いですが、AI 支援の原則は適用されます)。
- 法務ドキュメント: 契約書レビュープロセスの自動化。
- ヘルスケア: 診断支援、治療計画作成。
- 教育: パーソナライズされた学習体験の提供。
- 金融分析: 予測モデリング、データ分析。

7. 最近のイノベーションと将来のロードマップ (2025年リリースウェーブ1以降)

Copilot Studio は急速に進化しており、そのロードマップは、よりインテリジェントで(エンタープライズデータやリアルタイムナレッジのより良い活用)、使いやすく(事前構築済みエージェント、提案プロンプト)、より統合され(サードパーティ拡張機能、知識ソースとしての Teams チャット)、よりエンタープライズに対応した(CMK、セキュリティビュー、高度な分析)プラットフォームへの強い推進力を示しています。「コンピューターユース」機能は、ハイパーオートメーションに向けた大きな飛躍です。2025年初頭から中頃にかけて多くの機能がプレビューまたは一般提供開始予定であり⁹、2025年4月にもいくつかの機能がリリース(一部プレビュー)されています⁸。この開発ペースの速さは、積極的かつ意欲的な開発を示しています。これにより新しい機能が迅速に提供される一方で、プレビューのフィードバックに基づいて機能の変更されたり、ベストプラクティスが進化したりする可能性もあります。組織は、このダイナミズムを計画に織り込み、継続的なトレーニング、新機能のテスト、プラットフォームの成熟に伴うエージェントの適応にリソースを割り当てる必要があるかもしれません。

最近の主なアップデート概要 (2025年4月時点⁸)

- **Copilot Studio** エージェントにおけるコンピューターユース (限定リサーチプレビュー): エージェントがウェブサイトやデスクトップアプリの GUI と対話可能に。「人がアプリを使えるなら、エージェントも使える」とされています。これは、対話型 AI による UI 自動化における画期的な進歩です。
- 新しい **Microsoft Graph** コネクタ (プレビュー): Guru、GitLab、Asana、15Five、Miro、Trello、Zendesk、Smartsheet、Seismic Content など、データ統合機能を強化するコネクタが追加されました。
- エージェントフローにおける高度な承認 (パブリックプレビュー): 条件付きロジックを備え

た複数段階の承認プロセス。

- **Copilot Studio の顧客管理キー (CMK) サポート:** Azure Key Vault を使用したデータセキュリティと制御の強化。2025年5月に一般提供開始予定⁹。
- **Microsoft Viva Insights との ROI 分析 (パブリックプレビュー):** エージェントの利用状況とビジネス価値の可視化。
- **アナリティクスにおける自律型エージェントと生成的オーケストレーションのサポート:** 自律型トリガーを含む、エージェントパフォーマンスに関するより深い洞察。

計画中の機能強化と将来の方向性 (2025年リリースウェーブ1: 2025年4月～9月⁹)

- **コパイロットとAIイノベーション:**
 - 生成的回答のためのデータに対する Azure OpenAI の利用 (2025年5月 GA)。
 - ナレッジソースとしての Azure AI Search インデックス (2025年5月 GA)。
 - 新しいリアルタイムナレッジソースによるエージェントの有効化 (2025年5月 GA)。
 - カスタムコパイロットへの提案プロンプトの追加 (2025年5月 GA)。
 - 事前構築済みエージェントの Copilot 作成開始点としての利用 (2025年6月 GA)。
 - Copilot Studio カスタムエンジンエージェントによる M365 Copilot の拡張 (2025年5月 GA)。
- **コパイロット設定:**
 - Copilot Studio からのエージェントの発見とインストール (2025年5月 PP、6月 GA)。
 - 拡張機能を使用したサードパーティデータによるエージェントの強化 (2025年5月 GA)。
 - Copilot エージェントのコネクタアクションの公開停止 (2025年5月 PP)。
- **コアオーサリング:**
 - Copilot Studio でのエージェントアクションのテストとデバッグ (2025年5月 PP、11月 GA)。
 - エージェントのアクション利用状況の分析 (2025年5月 GA)。
 - カスタムエージェントのナレッジソース利用状況の分析 (2025年5月 GA)。
 - ナレッジデータソースの容易な発見と利用 (2025年5月 GA)。
 - ナレッジソースとしての Teams チャットの利用 (2025年5月 GA)。
- **サービス、ランタイム、ガバナンス:**
 - Copilot Studio 内のエージェントのセキュリティ関連ビューとステータスの表示 (2025年5月 PP、6月 GA)。

(GA = 一般提供開始, PP = パブリックプレビュー)

8. 結論と推奨事項

主要な調査結果のまとめ

Microsoft Copilot Studio は、AI エージェント開発のための2つの異なる、しかし関連性のあ

るアプローチを提供しています。一つは M365 と密接に連携し生産性向上を目指すもの、もう一つは Azure 上で包括的かつカスタムな AI ソリューションを構築するためのものです。

多くの組織にとって最適な戦略は、ハイブリッドアプローチである可能性があります。M365 統合版の Copilot Studio を広範でシンプルな生産性向上に利用し、Azure ベース版をターゲットを絞った影響力の大きい複雑な AI ソリューションに利用するのです。これにより、コスト、俊敏性、および能力のバランスを取ることができます。2つの提供形態は相互に排他的ではなく、組織は両方を利用できます。M365 版は、多くのユーザーが M365 中心のタスクを自動化するための低コストで簡単なエントリーポイントを提供します²。これにより、広範な採用と迅速な成果が期待できます。より専門的または要求の厳しいアプリケーション(例: 外部顧客サービスボット、深い LOB 統合)については、Azure 版が必要なパワーと柔軟性を提供します⁴。ハイブリッドアプローチにより、組織はそれぞれの強みを活用できます。つまり、M365 版でシンプルな AI 作成を民主化し、Azure 版で必要に応じて高度なエンタープライズグレードのエージェントを構築するのです。これは、問題の規模や複雑さに応じて異なるツールを使用するという一般的な企業戦略と一致しています。

最適な Copilot Studio 提供形態の選択に関するガイダンス

- **Microsoft 365 版 Copilot Studio** を選択すべき場合:
 - 主な目的が Microsoft 365 Copilot の拡張とカスタマイズである。
 - ユーザーが既に M365 Copilot のライセンスを保有している。
 - 焦点が内部の生産性向上と M365 データ(SharePoint、Graph)の活用にある。
 - よりシンプルなエージェント要件と、ビジネスユーザー/市民開発者による迅速な開発が優先される。
 - これらのシナリオにおいて、ユーザーごとのライセンスによるコスト予測可能性が望ましい。
- **Azure 版 Copilot Studio** を選択すべき場合:
 - 多様な内部または外部チャネル(ウェブサイト、カスタムアプリ)向けのスタンドアロンでカスタムな AI エージェントを構築する必要がある。
 - 高度な機能、Azure サービス(Azure AI Search、カスタムモデル)との深い統合、または複雑な LOB システムとの連携が求められる。
 - スケーラビリティとエージェント機能に対する詳細な制御が最重要である。
 - 消費ベースのコスト(メッセージごと)を管理する意思がある。
 - 開発が IT プロフェッショナル、開発者、または AI スペシャリストによって処理される。

導入に関する戦略的考慮事項

- 明確なユースケースから始める: AI エージェントが価値を提供できる具体的なビジネス上の問題や機会を特定します。
- 段階的なアプローチを検討する: より複雑な Azure ベースのプロジェクトに取り組む前に、M365 統合エージェントから始めて経験を積み、ROI を実証することを検討します。

- ガバナンスフレームワークを策定する: 選択した提供形態に関わらず、エージェントの開発、展開、データセキュリティ、監視に関するガイドラインを確立します²。
- スキルとトレーニングへの投資: ローコードではありますが、Copilot Studio、特に Azure 版を効果的に使用するには、対話設計、AI の概念、統合パターンに関する理解が役立ちます。Microsoft Learn⁶ は重要なリソースです。
- 利用状況とコストの監視: 特に Azure の従量課金モデルでは重要です。分析機能を活用します⁶。
- 最新情報を把握する: イノベーションのペースが速いため⁸、新しい機能やベストプラクティスを継続的に監視します。

最終的な考察

Copilot Studio は、組織が対話型 AI を活用するための重要な機会を提供します。M365 版と Azure 版の提供形態のニュアンスを理解することが、戦略的目標とリソースに合致した方法でその潜在能力を最大限に引き出す鍵となります。

引用文献

1. Your AI Assistant for Work | Microsoft 365 Copilot, 5月 15, 2025にアクセス、
<https://www.microsoft.com/en-us/microsoft-365/copilot/copilot-for-work>
2. Use Copilot Studio Agent Builder to Build Agents | Microsoft Learn, 5月 15, 2025にアクセス、
<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-365-copilot/extensibility/copilot-studio-agent-builder>
3. Copilot Studio licensing - Microsoft Copilot Studio | Microsoft Learn, 5月 15, 2025にアクセス、
<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-copilot-studio/billing-licensing>
4. Copilot Studio | Pay as you go pricing - Microsoft Azure, 5月 15, 2025にアクセス、
<https://azure.microsoft.com/en-us/pricing/details/copilot-studio/>
5. Microsoft Copilot in Azure, 5月 15, 2025にアクセス、
<https://azure.microsoft.com/en-us/products/copilot>
6. Official Microsoft Copilot Studio documentation - Learn Microsoft, 5月 15, 2025にアクセス、
<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-copilot-studio/>
7. HELP: Implementation Guide for deploying Copilot Studio in my organisation, 5月 15, 2025にアクセス、
<https://community.powerplatform.com/forums/thread/details/?threadid=e587a86c-a7fe-ef11-bae3-6045bdf03fcb&action=reply>
8. What's new in Copilot Studio: April 2025 | Microsoft Copilot Blog, 5月 15, 2025にアクセス、
<https://www.microsoft.com/en-us/microsoft-copilot/blog/copilot-studio/whats-new-in-copilot-studio-april-2025/>
9. New and planned features for Microsoft Copilot Studio, 2025 release ..., 5月 15, 2025にアクセス、
<https://learn.microsoft.com/en-us/power-platform/release-plan/2025wave1/micro>

[soft-copilot-studio/planned-features](#)

10. Top 20 Microsoft Copilot Studio Use Cases to Boost Productivity in 2025 - The NineHertz, 5月 15, 2025にアクセス、

<https://theninehertz.com/blog/copilot-studio-use-cases>

11. Top 30 Real-Life Use Cases for Microsoft Copilot - Redress Compliance, 5月 15, 2025にアクセス、

<https://redresscompliance.com/30-real-life-use-cases-for-microsoft-copilot-in-organizations/>

12. learn.microsoft.com, 5月 15, 2025にアクセス、

<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-copilot-studio/billing-licensing#:~:text=There%20are%20three%20different%20Copilot,%2430%20per%20user%2C%20per%20month>